

うちなーぐち

かわら版

沖縄語を話す会会報

第16号

2012年3月25日発行

会長 山路安清

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-kuni@nifty.com 國吉眞正

電話 & F a x 044-988-8065



しーさー

創立25周年記念号

「おきなわご沖縄語を話す会」はなかい月に二回集まちちるたけんあちぬ勉強会、びんちよーかい品川ぬ大崎をしながわて

- さんごしよー 珊瑚礁 ----- 山路安清
- くぐる いるいる うむ 此ぬ頃んしぬ色々ぬ思い ----- 五木田秀夫
- うちなーぐち かが 沖繩口とぬ係わい ----- 長谷川トピラス
- わ たー けーびんてつどー うんてんしゅ 我っ達たーりーや軽便鉄道ぬ運転手 ----- 内田善子
- うちなーぐちびんちよー 沖繩口勉強さびら ----- 和田晶子
- くみどいんー 組踊見じゃびたん ----- 花田匠子

- ・会報に出てきた語句の説明
- ・事務局から

会報の名称を「沖縄語かわら版」から「うちなーぐちかわら版」に変えました

ホームページ <http://www.wwq.jp/p/>
沖縄語教育支援文庫 <http://www.wwq.jp/q/>

さんごしよー
珊瑚礁

な一ぶくどば
「那覇言葉」 山路安清 (品川区)

わが大切にそーる物んかい山口由幾子んで言み
せーる御方ぬ書ちみそーちやる「珊瑚礁」んで言一
すむち
る書物ぬあん。

うん人ー、昭和十六年、夫ぬ那覇裁判長んかい成
たぐど、島流しさったんち、なちかさしがちーな一
ささきのぶつなしんしー いとまぐ
佐々木信綱先生んかい暇乞ーうんぬきたぐど、先生

や、「あまー、清ら染物ぬあんで言ぐど、春夏秋冬良
あじ じふ うたまき ちゆく また う
一味わて、是非『歌巻』作りよー。又、うむる御そ
ーしと、琉歌どめーて帰て来ーわ。」んで言みせーた
んで。

やまくち
山口さのー、ちゅばちなかい思いぬ変わて、二年ぬ
えーだ うちな一 ふーじなら うぐしく たまうどん
間なかい沖縄ぬ風儀習たい、御城・霊御殿・ゆー
どりぬ創い方まで調べみそーち、うぬ上に難さる
うむる御そーしまでん読どーいみせーん。

わが、昭和二十五年、熊本裁判長辞みて居み
せーたる山口加那志達んかいぬばがたぐど、大事な
うっ っさしみそーち、うぬ『歌巻』我んにんかい御賜み
せーたん。

うん人ー、「那覇一、千葉、浦和、前橋やかんまぎさ
る町やんで思ゆん。うれー、赤瓦ぬ家ど熱帯樹ぬ
えーだ み ゆるまぎ御墓んあた、デパートどか反
むぬやー うほー ちゅ まち い
物屋ん多くある清らさる町やん。」で言ちよーいみ
せーたん。

やまことばりゆーきゆー ことばふた つか たま
「大和言葉 琉球の言葉二つながら使い給ふこ
ひと うらや わら があ あたた い
の人の羨ましさ。」「笑い顔むけ暖かくものを言は
せども言葉分からねばわが心寒し。」んち、読ど一
いみせーん。

うちな一 くとしみなれ ちむくくるわ
沖縄ぬ事墨習ーしみそーち、肝心分かとーいみせー
る大事な優り者やみせーん。

う
(終わい)

く ぐる いるいる うむ
此ぬ頃んしぬ色々ぬ思い 五木田秀夫 (藤沢市)

きんもくせい はな かば ゆー あみさ
金木犀ぬ花ぬ、香かじゃそーたしが、夕びぬ雨さ
ーに、花一、いふ小散りて無ーやびらん。

な一 はな くー くがに ぐと いる
庭なかえー、うぬ花ぬ粉や、黄金ぬ如ーる色やしが、
じゆーたんし う
絨毯敷ちえーんねーっし、落とーいびーん。何が
やら、さくみんちゆしえー、うけーいふけーいさび
ーん。

わ たーじなん ゆーじ く ゆーうしな ゆちちた
我っ達次男ぬ雄司が、此ぬ世失て、な一、四月経
ちゆんでそーいびーん。

わらび わ わ た いち
うりが童そーいに、我んねー、どーさーに建てたる1
でーけー きざ しくと かんりにん
DKアパートをて、アパート授かいる仕事「管理人」
っし暮らちよーいびーたん。今ぬ家んかい移て来や
る際に、うぬ家ぬ「なーーちぬ座んかい入っち済む
がやー。」んで、うぬ童ぬ言たる言葉、我んねー、思
ん
出じゃちよーいびーん。

また わらべ なー じ
又、うぬ童一、庭をて、さんさな一が、鳴ちゆる時

ぶん
分ね一、「さんさな一や、あんし^な鳴ちゆしが、ど一や、
ゆんがしまさんで一思て一居らんがや一。」んて^い言ち、
や一にんじゆわら
家人衆笑一さびたん。

うぬ^じ次男一、四^し十^{じゆ}三^{さん}ぬ歳^{とし}やいび一たしが、「肺癌^{はいがん}
ぬ^{やんめ}病^のから脳^{うち}んかい^い移^いて、医^い者^さ一、治^のしゆ一さびら
んたん。

うりが女^めん子^こ一、我^わん孫^{まが}やいび一しが、次^じ男^なんか
い似^にち、笑^{わね}顔^が一、並^なみぬむの一あいびらん。いっぺ
一器^{ちろ}量^りやいび一ん。「目^みぬ中^ななかい入^いつて^ん病^やま
ん。」て^ゆ言^くる言^と葉^ばぬ通^とい、我^わんね一、いっぺ一愛^あさそ
一いび一ん。

「父^{ちち}の日^ひ」や、丁^{ちよ}度^ど、うぬ孫^{まが}と、うりが男^めぬ親^{うや}
と、別^{わか}り一る日^ひやいび一たん。

あんし、うぬ孫^{まが}一、棺^{くわん}箱^{ぼく}なかい「世界^{しげ}をて、ちんと
て一ちぬ^{はな}花^{はな}」んて^ゆ言^いるオルゴール^い入りゆんち、しこ一て
む^ち持^ちつち来^きえ一いび一たん。

我^わんね一、今^{なま}一、何^ぬすしんちるだいし力^{ちから}ぬ出^いじや
びらん。生^いちちが居^をら、生^いちちよ一てん、肝^{ちも}一、此^くぬ
ゆ一なかい、無^ね一んて^ん思^{うま}一りやび一ん。

次^じ男^なぬ棺^{くわん}箱^{ぼく}なかい、我^わんね一、手^て紙^が書^みち入^いつと一
ちやびたん。

「な一、な一ちぬ座^ざんかい入^いつち済^しむんど一。勇^{いさ}
み立^たつち逝^いきよ一や一。我^わんにん、何^い時^ちか一逝^いちゆく
どや一。や一んかい、オマル・ハイヤムぬ「詩^し」送^{うく}ら

や一。
『無^ね一らんしんかい^てん手^なぬわ^かたぬ中^あなかい風^かぬ有^あ
い、有^あしんかえ一、破^やんて^ど不足^ふびけ一んと^あ有^ねる。無^ね
一らんと^う思^むいね一、有^あるうっさぬむんぬ有^あい、有^あんて
見^んじ一ね一、有^あるうっさぬむの一無^ね一らん。』

や一骨^{くちえ}一、ちむえ一ぬあて、我^わん男^めぬ親^{うや}ぬ、五^く十^{じゆ}
年^{にん}忌^ちぬ御^う焼^す香^こぬ当^あた^いる霜^{しも}月^づぬ二^はち^が日^かに、鴛^かなかい
納^なみゆんちどやんど一や一。

うぬ日^ひぬ朝^{あさ}一、経^{ちよ}文^{むん}読^ゆまん如^{ごと}、散^{さん}山^{やま}節^{ぶし}さ一に、や
一送^うて^と取^とらすんち思^うと一んど一。んち、書^かちやびたん。

まくと じち わぢむ
誠^{まこと}かや実^{じち}か 我^わ肝^{ぢむ}ふりふりと

にざ うどる ゆみ くくち
寝^に覚^ざみ 驚^{うどる}ちぬ 夢^{ゆみ}ぬ心^{くくち}地

(うわい) 「2011年10月10日記」



あかばな一

うちな一ぐち かか
沖^う縄^ち口^{ぐち}とぬ係^{かか}わい 長^ち谷^や川^がトピアス(大^お田^お区)

はいさい。我^わんね一、トビー^とんで、呼^ゆばつと一る者^{むん}

やいび一ん。
五^く年前^{にん}に、日^に本^{ほん}語^ご習^{ない}ゆんち、ス^ちイ^ちス^ちから来^きや一びた
ん。勉^{びん}強^{ちよ}そ一いね一、い一くる分^わからんたる日^に本^{ほん}ぬ
中^なぬ沖^う縄^ち、う^ちりからアイヌ^くぬ事^{こと}ん、い^いふ^ふな一^わ分^{ぶん}かい

くとな
る如いびたん。

あんし、^{くんど}今度一、^{くとば}言葉んいふ^な小習て見でーやーんて思

とーいびーん。

わ ^く我が暮らちよーたる^{まちえ}スイスぬ町一、^{ごちか}ドイツ語使

いる^{しま}島やいびーしが、^{くとば}ドイツぬじよーま言葉と一、^か変

わとーいびーん。

やいびーしが、^{ちゆいだ}一人立ちする^{くとば}言葉(独立言語)どっし

え一、^{かんげ}考ーらって一^を居いびらん。

^{なま}今まで^{びんちよー}勉強^わっし^{うちなーくち}分かつしえ一、^な沖縄口と^なスイスぬ

^{しまくとば}島言葉と^に似ちよーる^{どくる}所やいびーしが、^く此ぬ^{た一}二ちえ一、

^{めーめー}な一銘銘ぬ^{くとば}じよーま言葉と一、^かいっぺー^か変わとーる

^{くど}事やいびーん。

^くスイスぬ^{しま}小さる^か島な^{しま}かえ一、^かいっぺー^か変わとーる^{しま}島

^{くとば}言葉ん^なちやっさん^なあいびーん。

^{また}又、^{うちなー}沖縄ぬ^な「小」^ゆんて^{せつびご}言る「接尾語」ぬ^なあいびーし

^{しまくとば}が、^なスイスぬ^な島言葉ん^なかいん「小」ぬ^{くど}如一^なる^なむんぬ

あいびーん。

^{たと}例れ一、^{しゃしぬ}「写真」^なんかえ一、^{しゃしん}「写真」^やで一言ん^{くど}如、「写

^{しん}真小」^なんて^い言ちよーい^ゆびーん。^ゆ言一^{うゆ}にん^{うちなー}及ばん、^な沖縄

^{くち}口と^{くとば}スイスぬ^な言葉一、^な文法^なや、^な似ちえ一^な居いびらん。

^{うちなーくちえ}沖縄口一、^{いるいる}色々^なあーり^{どくる}きさる^な所ぬ^なあいびーくど、

^{うちなーくち}な一^なふん^な沖縄口ぬ^かいっぺー^な変わとーる^な所^な見一^な出^なじ

^なやし^な欲さんて^な思とーい^なびーん。

(^な終わい)

わ ^{た一}我^な達^なたーりー^なや^な軽便^な鉄道^なぬ^な運転^な手

内田善子 (八千代市)

わ ^{た一}我^な達^なあ^なやー^なや、^なラジオ^な沖繩^なぬ、^な「^な暁^なでー^なびる」

^ゆんて^な言る^な番組^な聞^なちや^なが^なち一、^な目^なく^なの^なやー^なう^なさが^なて^なか

ら、^なふ^ないっ^なち一^なや^な始^なまい^なび^なたん。

やいびーしが、^なう^なぬ^なあ^なやー^なや、^な体^なぬ^な按^な配^なぬ^な悪^なく^な成^なて、

^な医^な者^なぬ^な屋^なぬ^な厄^な介^な成^なて^な無^な一^なや^なび^ならん。

^なや^なつ^など^なか^なつ^など、^な医^な者^なぬ^な屋^なか^なら^な出^なじ^なら^なり一^なる^な明^な日^なん^なて^な言

^なる^な日^なに、^なベ^なッ^なト^なか^なら^な落^なて^なて、^な骨^な折^なて^な無^な一^なや^なび^ならん。

^なな一、^なう^なん^なに一^なか^なら^な医^な者^なぬ^な屋^なか^ない^な入^なっ^なち^なや^ない^な出^なじ^なたい

そーい^なびー^なたん。

^な始^なめ一、^など一^なぬ^な家^なか^なら^な近^なち^なや^なさ^なる「^な那^な覇^な市^な立^な病^な院^な」

やい^なびー^なたん。^なう^なぬ^な後、^な壺^な川^なぬ^な病^な院^なか^ない^な移^なて、^なあ^なん

^なし^なか^なら「^な南^な部^な德^な洲^な会^な病^な院^な」^なか^ない^な行^なち^なや^なび^なた^なしが、

^なな一、^な家^なか^なら一、^なた^なつ^なた^な遠^なく^な成^ない^なび^なたん。

^なう^なぬ^なあ^なやー^なや、^なう^なん^なに一^なま^なん^なぐ^なる^なか^なら、^な戦^なを^なて^な此^なぬ

^な世^な失^なみ^なそ一^なち^なや^なる^なたー^なりー^なが、^な我^なん^な迎^な一^ない^なが^なめ^なん^なそ

^な一^なち^なよー^なん^なて^な言^なち^なや^ない、^な早^なく^なたー^なりー^なに一^なか^ない^な行^なち^な欲

^なさん^なて^な言^なみ^なし^なえ一^なびー^なたん。

^なたー^なりー^なや、^な三^な十^な一^なぬ^な歳^なに^なま一^なし^なみ^なそ一^なち^なや^なく^など、

^な孫^なや^なか^なん^な若^なさ^なる^なち^なむ^なえ一^なや^ない^なび一^なさ。^なあ^なん^なす^なく^など、

^なう^なぬ^なあ^なやー^なや、^なん^なめ一^な成^なた^なる^な我^なん^なに^なん^なか^なえ一、^な行^な会^なゆ

^な一^なさん^な善^なん^なて^な言^なち^なよ一^なみ^なし^なえ一^なびー^なたん。

^なう^なぬ^な頃、^な又、^な別^なぬ^な医^な者^なぬ^な屋^なか^ない^な行^なち^なゆ^なる^な如^な成^ない^なび

たん。

な一、今度一、此りっし終わいが成いら分らんしが、

系満なかいある「西崎病院」が、い移やびたん。

な一、うぬあや一や、たったかにはんでて、八十九

ぬ歳にま一しみそ一ちゃん。

あや一が、此ぬ世失みそ一ち、一年経っちから、

沖縄タイムスぬ新聞記事なかい、我っ達た一り一が、

若さるまんぐるぬ写真ぬ載と一いび一たん。

実一、うるまし一事、昔あたる軽便鉄道ぬ稲嶺

駅舎前をて、駅ぬ相中とまじゆ一ん抜じえ一る記念

写真やいび一たん。

うぬ記念写真んで言しえ一、戦ぬばんじどやたる箬

やしが、沖縄をて、アメリカ兵隊が、拾って一る

アルバムぬ中なかい入っちょ一たる写真やいび一たん。

うぬアルバモ一、うぬ兵隊が、アメリカかい持っち行

じ、大切にかじみて一る物やいび一たん。六十五年

経っちやるんちゆ、アルバムぬ主んかい返ち取らし

んち、沖縄タイムス社んかい送らって来よ一る物や

いび一たん。

うぬアルバムぬ主一、誰がやら分らんくど、沖縄

タイムス社んかい置かっつと一いび一ん。

な一、いっぺ一うるまし一事やいび一さ。うぬアルバ

ムなかい、ちんど一枚我っ達た一り一写真ぬ入っち

よ一いび一たん。

あや一や、あぬ世をて、た一り一んかい行達ゆるく

と一成らん箬んで言みしえ一たしが、我んにんかい

行達たんど一んち、知らちよ一るちむえ一やいび一ん

で一や一たい。

我っ達た一り一や、軽便鉄道ぬ運転手やたんでぬ

事やいび一ん。

あんし、うぬ稲嶺駅んで言しえ一、あや一が、ま一

しみそ一ちやる「西崎病院」ぬ近くんかいあたん

でぬ事やいび一ん。

我んね一、あや一見一舞一し一が行ちゆる場ね一、系

満かい行ちゆるバスんかい乗と一いび一たん。此ぬバ

スぬ通と一る道一、昔、軽便鉄道ぬ通と一たる系

満線ど成と一いび一る。

我っ達た一り一が、持っちょ一たる電車やれ一、思と

一たる通い、あぬ世からあや一迎一いがめんそ一ち

え一さや一、んで思と一いび一ん。

あんし、我っ達あや一や、今頃一、た一り一が持っ

ちよ一る電車んかい乗て、沖縄一巡いそ一みしえ一

る箬やいび一ん。

な一、っ子ぬ達三人育て呉みそ一ち、いっぺ一

にえ一で一びる。

あや一や、我んにんかい「何が、や一や、沖縄口ま

で忘て、諸大和口やさや一。我んね一、いっぺ一し

から一さんど一。」んで言ちよ一みしえ一び一たん。

あんすくと、我んね一、「な一、ちゃーん無一やびら
んどーたい。今一、沖繩口忘て一成らんち、うみは
まで、勉強 そーいびーんどーたい。」んち、あやーん
かいうんぬき一欲さいびーん。

(終わい)

沖繩口勉強さびら 和田晶子(我孫子市)

沖繩口始めてから、な一、五年成いびーしが、今や
てん言葉ぬ声出じゃすしえ一、難さいびーん。

ある日ぬ事やいびーん。

我んね一、あんま一肩んかい紐と一る蠅見一当てた

くと、手さーに追一やびたん。

あんさくと、うぬ蠅や、あんま一ながにんかい移て歩

ちゃびたん。我んね一、又ん追一やびたん。

今度一、あんま一頭ぬ上辺んかい移て無一やびらん。

あんしやながまし一むんやいびーるやーたい。

我んね一、勉強会を習たる「あーほーゆん」で

言う沖繩口思出じゃさびたん。

沖繩口稽古さなんと思て、我んね一、あんま一頭ぬ

上辺んかい紐と一る蠅んかい「あーほーゆん。あー

ほーゆん。」て言びたん。

あきさみよ一。うぬ嫌な蠅や、我ん面んかい的当て

て、飛つ来無一やびらん。

我ん「あ」ぬ発音ぬど、異風なむんやいびーたがや

一。あんすくと、我ん面んかい的当てて飛て来えーい
びーんでーや一。

な一、此れ一、かんしえ一成らんむんで思て、我んね
一、意地ぬ出じて、発音ぬ稽古さびたん。

先じえ一、息止みて、あんしから、喉弦ぬたば
さく一て、あつたに息出じゃち、「うい」んかい成ら
ん如「あ」「あ」んて言ち、稽古そーいびーたん。

うね、ふるまし一物。うぬ嫌な蠅や、何処かいが行じ
やら、居らん成て無一やびらん。

此りからん、な一ふるん、沖繩口ぬ稽古はまりわど
やるんで、思と一いびーん。御衆様、宜さる如御願一
さびーん。

(終わい)

写真 國吉(眞)



組踊見じゃびたん

花田匠子(相模原

市)

去じやる九月二十三日に、「世田谷区民会館」を

て、組踊ぬ公演ぬあいびーたくと、我んね一、うり
見じーが行ちゃびたん。

我んね一、初みてど見じゃびたしが、いっペー肝打た
りやびたん。

声ぬ響ちゆしえ一、いっペー清らさいびーたん。又聞
ち事んやいびーたん。

こーえん あど わ くによしんしよーしんしー えーじゅー
公演ぬ後、我んねー、國吉眞正先生、うりから相中

どまじゅーん 楽屋かい入っち行じ、眞境名正憲先生

めー 前んかい御挨拶うんぬきゆるくと成て、いっペー

てーしち しか うたび うむ
大切な為枯らし御賜みそーちゃんて思とーいびーん。

くみぞい ぶてー ちゅー
組踊ぬ舞台や、どーど清らさいびーたん。

く 此りから、組踊にちーてん、なーふん勉強っし行け

ーやーんて思とーいびーん。

く こーえん めー ぬー にんげんこくほーてる き な ちよーいちしんしー
此ぬ公演ぬ前ぬ日や、人間国宝照喜名朝一先生

から三線ぬ弾習ー御賜みそーち、いっペー有り難ー

くど 事やんて思とーいびーん。

うぬなーちゃまぞん、我んねー、三線ぬ響ちぬ宜さ

ぬ、我ん肝んかい残とーいびーたん。

(終わい)

会報に出てきた語句の説明

- ・ なちかさん：悲しい。
- ・ がちーなー：ながら。つつ。
- ・ うんぬきゆん：申し上げる。目上に言うことの敬語。
- ・ うむる御そーし：おもろ御そうし。沖縄最古の歌集。
- ・ ちゅばち：一撃。一回の打撃。

うくしく
・ 御城：首里城。王の居城。

たまうどん
・ 霊御殿：歴代琉球王の墓地。首里高校の南側にある。

- ・ がなしー
・ 加那志：様。尊敬の意を表す接尾辞。
- ・ ぬばがいん：ちよつとのぞく。ちよつと顔を出す。
- ・ うたび
・ 御賜みしえーん：賜る。下さる。「呉ゆん」の敬語。
- ・ ~やか：より。比較の基準を表す。

まえばし
・ 前橋やかん：前橋よりも。

しみなれ
・ 墨習ー：学問。

かば
・ 香かじゃ：芳香。よいにおい。

・ ~さーに：で。

・ いふい小：少し。

・ ~ねー：(～する)ように。

・ 敷ちえーんねーすん：敷いてあるようにする。

・ 何がやら：どうしたのか。どうしたわけか。

・ ふいさくみんちゆん：足を踏み入れる。

・ うけーいふいけーいすん：大いにためらう。

・ どーさーに：自分で。

・ さざ しぐど
・ 授かいる仕事：管理する仕事。

・ さんさなー：くまぜみ。

・ ゆんがしまさん：かしましい。やかましい。

のー
・ 治しゆーさん：治すことができない。

・ いっペー：たいそう。非常に。たいへん。

・ ちんど：ぴったり。きっちり。

・ ちんどーち：たった一つ。

・ しこーゆん：用意する。準備する。

・ ちるだいすん：落胆する。がっかりする。

てー
・ 手ぬわた：手のひら。

あ
・ 有るうっさ：あるだけ。あるかぎり。

くち
・ 骨：こつ。遺骨。

・ ちむえー：意味。わけ。

うすーこー
・ 御焼香：法事。回忌ごとに行う法事。

ちよーむんゆ
・ 経文読むん：読経する。

まくど しち わぢむ にぎ うどる
・ 誠かや実か 我肝ふりふりと 寝覚み驚ちぬ

ゆみ くくち
・ 夢ぬ心地：本当のことなのだろうか、私の心は呆然

として、夢から覚めて驚いた時の気持ちがある。

子を失った時の歌。

・ ばーくる：おおよそ。大方。大体。

・ いふいなー：少しずつ。わずがずつ。

しま
・ 島：(島の意味は広い) 村里。部落。故郷。出身の

部落。領地。島。海に囲まれた島。

・ じよーま：規格。標準。

- ・じょーま^{くどば}言葉：標準の言葉。
- ・な^{めーめー}銘銘：銘銘。各自。
- ・言^ゆーにん^{うゆ}及ばん：言うまでもない。勿論である。
- ・ちゃっさん：いくらでも。
- ・あ^めーりきさん：面白い。楽しい。
- ・な^ふーいん：もっと。さらに。
- ・あやー：母。おかあさん。
- ・目^みく^ふやー：目ざまし。おめざ。朝など目を覚まし
た時に与える菓子の類。
- ・うさがゆん：召し上がる。
- ・ふ^いっちー：一日。また、一日中。
- ・やっどかつど：やっど。ようやく。
- ・うんにーから：その時から。
- ・たった：たびたび。次第に。
- ・まんぐる：頃。おおよその時を示す。
- ・うんにーまんぐる：その頃。
- ・たーりー：父。お父さん。
- ・めんしえーん：いらっしゃる。おいでになる。いる・
行く・来るの敬語。
- ・めんそーちょーん：いらっしゃっている。
- ・にー：そば。
- ・たーりーにー：お父さんのそば。
- ・まーずん：死ぬ。なくなる。
- ・んめー：おばあさん。
- ・かにはんぞゆん：耄碌する。ボケる。
- ・ふ^いるまし^{くど}ー事：不思議なこと。珍しい、怪しい事。
- ・相^{えーじゅー}中：同僚。仲間。
- ・まじゅーん：一緒(に)、共(に)。
- ・抜^ぬじゅん：抜く。脱ぐ。写真を撮ることも「抜じゅ
ん」と言っています。最近「撮ゆん」と言う人が
います。
- ・戦^{いくさ}ぬばんじ：戦の真っ最中。
- ・拾^{ふり}ゆん：拾う。
- ・かじみゆん：秘蔵する。大事にしまっておく。
- ・んちゅ：一昨年。おととし。
- ・しからーさん：さびしい。
- ・ちゃーん^ね無ーん：どうもない。大丈夫だ。

- ・うみはまゆん：はげむ。熱心に努力する。
- ・追^うーゆん：追う。追い払う。
- ・あんさくど：そうしたら。
- ・ながに：背中。
- ・やながましーむん：しつっこい、いやなやつ。
- ・あ^めーぼーゆん：追い払う。
- ・喉^{ぬーどーじる}弦：声帯。
- ・たばさ：間。
- ・くーゆん：閉じる。
- ・あつたに：にわかに。不意に。いきなり。
- ・はまゆん：励む。没頭する。「うみはまゆん」とも
言う。
- ・為^{しか}枯らし：経験。
- ・なーちゃ：翌日。
- ・どーど：はなはだ。非常に。とても。
- ・どーど^{ちゆ}清らさん：ぐっと美しい。

*本文中では、語句は活用されているのがありますので、ここに示しました語句とは必ずしも一致しておりません。

*参考文献

- ・沖縄語辞典「国立国語研究所」
- ・沖縄語辞典 内間直仁・野原光義 編著
- ・Okinawan-English Wordbook Mitsugu Sakihara
「University of Hawaii Press」
- ・広辞苑「岩波書店」
- ・新公用文用字用語例集「内閣総理大臣官房総務課監修」

事務局から

記念号ということで、6名の方々が投稿されました。ありがとうございました。スイスから来られたトビーさんも、少し「うちなぐち」で書いていただきましたね。ありがたいです。

かつて、作家井上ひさしさんが、母校の上智大学で講義された時の講義録の中に、「一番読みやすく、書きやすく、正確で、しかも潤いがある、そういう日本語を見つけよう。」ということが書かれております。このことから学んで、「うちなぐち」においても、同様に次世代の若い方々にも渡していける、きちんとした会報作りを目指したいと思っております。

この会報は、「うちなぐち」にご関心があれば、会員以外の方でも投稿できます。

原稿は趣旨を変えないで、手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。國吉(真)

絵 花田匠子「沖縄語を話す会会員」

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と [tu]	とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と [hwe]	とー(南) にとーでーびる(有難うございます)
と [to]	とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ [he]	へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど [du]	どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や [?jal]*	やー(君、お前) やん(言わない)
ど [dol]	どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や ['jal]	やー(家) やん(である)
て [ti]	てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ [?jul]*	ゆん(言う)
て [te]	てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ ['jul]	ゆんたく(おしゃべり)
て [di]	ふて(筆) めーてー(喉) てきやー(秀才)	よ [?jol]*	よーいー(おさな子)
で [de]	でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	よ ['jol]	よーんなー(ゆっくり)
ふ [kwa]	ふじ(火事) ふっちー(ごちそう)	あ [?wa]*	あー(豚) あーちち(天気)
か [ka]	かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ ['wa]	わーむん(私のもの)
ふ [gwa]	にんふん(念願) ふんく(頑固)	あ [?wi]*	あー(上) あーりきさん(面白い)
が [ga]	がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	み ['wi]	みきが(男) みなぐ(女)
く [kwi]	くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる)	系 [?we]*	系ーきー(金持ち) 系んちゆ(ねずみ)
き [ki]	きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	系 ['we]	うい系ー(お祝) わじゃ系ー(災い)
ぐ [gwi]	ぐーく(越来「地名」)	ん [?N]*	んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ [gi]	かーぎ(容ぼう)	ん ['N]	んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなと(港)
く [kwe]	くー(鋤) からじくー(髪きり虫)	い ['i]*	いん(縁) いだ(枝)
け [ke]	けー(かゆ) ちけー(使者)	い [?i]	いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
ぐ [gwe]	ぐったい(ぬかるみ)	を ['u]*	をと(夫) ちーじ(さとうきび)
げ [ge]	げー(害) にげー(願い)	う [?u]	うと(音) うーび(帯)
ふ [hwa]	ふー(葉) なーふ(那覇)	え ['e]*	えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は [ha]	はる(畑) はぎもー(荒地)	え [?e]	えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
ふ [hwi]	ふじゃい(左) ふーと(いるか)	お [?o]	おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ [hi]	ひやみかすん(えい、と言う)	を ['o]	をーじ(王子) をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方 [?]は声門破裂音のあること、[']は声門破裂音のないことを示す。

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 とーい(鳥) ×とーい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)